

# 世界連邦 Newsletter

2015 年 3 月 28 日  
第 628 号



発行所  
世界連邦運動協会  
World Federalist Movement of Japan

〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F  
電話 (03) 6803-2114 F A X (03) 6803-2117  
E-mail: info@wfmjapan.org Twitter : wfmjapan  
URL: <http://www.wfmjapan.org/>  
郵便振替 00190-6-29964  
1 部 100 円 (年 6 回 奇数月 1 回 28 日発行)

## 全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展

### 文部科学省後援、文部科学大臣賞も授与、応募作品 2656 点



文部科学大臣賞のトロフィーを受け取る由良僚佑さん

第 43 回世界連邦推進全国小中学生ポスター・作文コンクール優秀作品展が 2 月 13 日から 15 日まで、東京都庁第一本庁舎南展望室で開催された。文部科学省が後援。文部科学大臣賞も授与された。表彰式は、2 月 14 日、新宿 NS ビルの 3H 会議室で行われ、入選した児童、生徒、父母や親族など約 90 名が全国から出席。日下部禎代子理事長(元文部政務次官)が文部科学大臣賞状と副賞(トロフィー)または海部俊樹会長賞状、副賞(特賞=楯、湯川スミ賞=ブロンズ、入賞=楯、佳作=メダル)を授与した。今年はポスターが 113 校 1886 点、作文は 59 校 770 点の応募があった。表彰式当日は快晴に恵まれ、受

賞した生徒たちの嬉しそうな表情であふれた。表彰式は、21 世紀フォーラムを中心としたスタッフの方々のおかげで無事終了した。

## 作文の部・文部科学大臣賞 「未回収の遺骨」

松山市立拓南中学校 3 年

丹生谷 紫月

激しい雨が降る熱帯雨林の中、歩いていても歩いていても死臭が鼻をつく。口の中で白いうじ虫がうごめく兵士のそばをひたすら前進…。

これは八月一四日付の愛媛新聞に掲載された、元兵士山田さんの体験です。インパール作戦撤退の命を受け、インドから山越えでミャンマーのサガインを目指した行軍は、

「生ける墓場のようにあったです。」

と、語られていました。行軍は過酷を極め、昼も夜も打ちつける雨が気力を奪います。飢えと暑さと感染症が後をたたず、元気だった仲間が二・三日後には息をひきとり、至る所で人が死に、死臭が途切れ

そうになっても新しい死体に出くわすのです。たくさんの兵士の方が命を落とした退路は、「白骨街道」とまで呼ばれました。

戦争は本当に理不尽です。異国で亡くなられた兵士の方達は、歓呼の声で送られたのに、遺骨は戦後七〇年が来ようとする今もなお野ざらしのままです。魂さえも使い捨てにしました。

安倍晋三首相は「国の責務」として遺骨収集を強化する方針を表明され、三月には岸田文雄外相がミャンマー外相らに遺骨収集の理解と協力を要請され、本格的な収集が始まります。一柱でも多くのご遺骨を帰還させたいです。

日本は、日本国憲法第九条により、国内でも国外でも戦争をしていません。平成二六年八月に広島を襲った未曾有の土砂災害では、自衛隊の方々が一人でも多くの人を助ける一心で救助活動をされました。ただひたすらに、昼夜を問わず、泥にまみれての救助活動でした。でもそんな自衛隊の方が手に武器を持って戦うのは反対です。

戦争を再び繰り返して何をしようとするのでしょうか。日一日と戦争が激しくなる中、特攻隊員の方が家族に宛てた手紙に綴った思いを踏みにじることはしてはいけません。

戦争を始めるのは、いつも時の権力を持つ大人で、戦場で闘うのは、その権力者ではありません。そしてその戦争で犠牲になるのは、いつも社会的に弱い立場の人間です。

人は何の為に生きて苦しみ戦うのかはわかりませんが、武器を持ち誰かを傷つける為に産声をあげて生まれたものではありません。

日本人の愛する桜が再び戦いの象徴とならないように、そして語り部の方たちがご自身の体験を語り続けられた平和の礎をくずさないようにしっかりと受け継ぎ、一分一秒でも長くと国を護る為に命を落とした、たくさんの兵士の方のご遺骨が未だ異国の地や太平洋戦争末期の激戦地硫黄島に回収されず、放置されたままの現実をもっと認識して、「遺骨収集作業」に関心を装うのではなく、少しでも私はこの作業に貢献出来るようにしたいです。

戦争は、家族の元に還えることが出来ない許されない戦いで、人間の心まで奪って暴走してしまいます。家族と一緒に暮らせる平和、綺麗な花を観て音楽を奏でる平和、動物園がある平和に核や武器はいりません。

私の叫声がかすれてしまい言葉にならずとも響き渡り、届いてほしいと切実に願います。



第 43 回世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクール  
表彰式 新宿 NS ビル アトリウムにて



文部科学大臣賞 ポスターの部  
綾部市率綾部中学校 2 年 由良僚佑さん



表彰式風景

## 東北復興からみえる、組織と個人のこれから



藤沢 烈氏

藤沢 烈（一般社団法人 RCF 復興支援チーム代表理事） Profile 一橋大学卒業後、マッキンゼー・アンド・カンパニーを経て独立。NPO・社会事業等に特化したコンサルティング会社を経営。東日本大震災後、RCF 復興支援チームを設立し、情報分析や事業創造に取り組む。文部科学省教育復興支援員も兼務。共著に『ニッポンのジレンマぼくらの日本改造論』（朝日新聞出版）、『「統治」を創造する 新しい公共/オープンガバメント/リーク社会』（春秋社）。最新刊は「社会のために働く 未来の仕事とリーダーが生まれる現場」（講談社）

3月8日東京日比谷図書文化館スタジオプラスにおいて、世界連邦 21 世紀フォーラム主催のピースビレッジ第 30 回講演会が開催された。講師は東日本大震災後に一般社団法人 RCF 復興支援チームを立ち上げ、現在も専任スタッフ 60 名を抱え、復興コーディネイターとして活躍している藤沢烈代表理事である。演題は「東北復興からみえる、組織と個人のこれから」であった。

藤沢氏は行政や企業、コミュニティの市民をつなぎ、それぞれのガイド役となって関係調整を行ってきた。RCF 復興支援チームは産業・まち・人に分けられ、それぞれ麒麟、グーグル、大熊町などと連携しながら業務に取り組んでいる。

2015 年 1 月現在 23 万人の避難者があり、復興の課題は被災者支援、まちの復旧・復興、産業・雇用、福島復興に分類されている。

被災者支援は、2014 -15 年が復興住宅への転居のピークであり、仮設住宅に残される弱者の支援、復興住宅コミュニティの再編が課題である。

まちの復旧・復興に関しては、復興庁によれば、昨年 12 月現在、学校施設や医療施設は 95%復旧が完了しており、まちづくりも 95%が着工済み。住宅の完成は 16%だが、85%が用地確保済みである。

産業・雇用については、水揚げ金額の回復が 85%、水産加工施設の再開が 80%と復興は進んでいるものの、震災以前の水準まで売り上げが回復した事業者は 28%にとどまっている。

福島全体の避難者は約 12 万人、避難区域からの避難者は約 8 万人に及んでいる。「戻りたい」方、「判断がつかない」方、「戻らない」方のそれぞれへのサポートが必要である。



企業の取り組み例としては、Google 社による避難区域のストリートビューのように、企業のサービス、製品の持っている価値を震災支援というかたちで捉え直し、

新しい価値を見出している例がある。ヤマト社による「まごころ宅急便」は、自社の保有する物流・情報・決裁機能を活用し、地域の自治体・事業者とともに安否確認など地域の方々を支えることに役立てている。

3月11日でまる 4 年となるが、5 年目の課題として、個人に関してはボランティア活動者が減少していることが挙げられる。また、企業による復興支援に関しては、企業の強みを生かした長期にわたる支援が求められている。地域においては 2000 年以降、地域コミュニティが弱くなっており、近所づきあいの程度は阪神大震災のころ町村 60%弱、大都市 30%強であったのが、東日本大震災のころは町村 20%強、大都市 20%弱となっており、町村のコミュニティの弱化がより強まっている。さらに避難によって地域住民のつながりが寸断され、孤立感を深めている被災者も少なくない。

注目していただきたいのは、東北復興と同じ課題が全国を襲うということである。すなわち人口減少や高齢化は全国共通の課題であり、東北は 20 年先を進んでいると言える。

5年目以降は、コミュニティと地域産業という見えにくい復興が必要である。グーグル、キリン、ヤマト運輸といった大手企業は間接的な資金・ボランティア支援にとどまらず、本業を通じた支援を行なって成果を上げている。

一方で、復興に関わる個人と企業は減少しており、構造的な地域コミュニティの弱化があり、個人の孤立が深まっている。

復興の実感を高めるには、人とのつながり・関わりといったソーシャル・キャピタルが必要である。コミュニティでの活動事例として、福島県双葉町のように住民主体で参加する「場」づくりが有用である。それはハコものとしての場ではない。また岩手県釜石市のように従来の町内会ではなくて、内と外が繋がった流動的なチームによって人のつながりは再生産される。

地域産業のあるべき姿の事例として、地域事業者がお互いにオープンなコミュニティを設け、ノウハウの共有、ブランド統一、共同交渉などを行うのが有効である。

また外との連携を通じて、プロボノでウェブサイト運営のノウハウをコンサルティングしてもらうなど「風の人（企業）」と「土の人（地域）」の交流が功を奏する。

企業のあるべき姿の例として、ヤマトホールディングスは全国の拠点とセールスドライバーを活用し中期経営計画に社会課題を解決することを盛り込んでいる。キリンも社会問題の解決に焦点をあてたと取り組みを進め長期的なブランド価値の構築を目指している。

個人のこれからのあり方としては、組織人というピラミッド構造ではなく、「個人」としてTwitterやFacebookなどの社内外のネットワークを活かして仕事を進めることが求められる。またGoogleやAmazon、Appleのようにプラットフォームを構築する力が必要である。

組織と個人のこれからのまとめとしては、人とのつながり・関わり（社会的関係資本＝ソーシャル・キャピタル）がコミュニティの本質であり基盤である。ソーシャル・キャピタルを高めるには、「場」「チーム」「関係人口」の強化が求められる。

企業と個人のあるべき姿としては、企業がNPOを保有し、間接的なCSRでなく、直接的に社会事業を行う時代になると考えられる。個人は所属を超えたチームのリーダーになることが求められている。

東北の問題は全国の問題であり、組織と個人の変化は東北から生まれつつある。支援だけではなく未来を見つけるために、改めて東北と関わってみませんか。

（阿久根 武志）

## 京都支部例会 宮本祖豊住職講演会



宮本祖豊住職

京都支部では、1月25日京都東山高台寺 京大和にて、天台宗延暦寺山中の修行道場・居士林所長を務めておられる円龍寺住職 宮本祖豊氏を迎え、「恩がえし」のテーマで例会が開催された。会場いっぱい集まった参加者は、1200年に渡る伝教

大師・最澄の精神（一隅を照らす）を基に、日本仏教の中で最も厳しい荒行「籠山行」を満行なされた宮本氏の20年間のご体験話などを通して、今後の教育・指導、そして国内外における世づくり・世界の平和に向けての道標を拝聴した。講演後、籠山行の修行について書かれた「覚悟の力」（致知出版より昨秋に完成した話題の著書）の出版記念サイン会が行われた。

日本の磨かれた文化、宗教、精神性などが、いかに今日の国際社会の中で輝きあるものかを考えさせられた会であった。

（京都支部 支部長 品川 幹雄）

## 豊中支部新年会

1月8日、豊中支部の新年会がホテルアイボリーにて開催され、60名が参加した。来賓として浅利敬一郎豊中市長が挨拶、当協会の中野寛成会長代行、大塚高司・木下智彦両衆議院議員や府議会議員、豊中市議会議員、教育長などが参加した。

豊中市は、世界連邦運動を支える熱心な自治体の一つであり、毎年新年会には、多くの自治体関係者が参加する。豊中支部は「地域の和」・「国の和」・「世界の和」を訴え、「核兵器廃絶」等に尽力することを誓った。

（豊中支部長 小畑 忠英）

# パレスチナ・ジェリコ工業団地建設について

岩浅 紀久



岩浅 紀久氏

イスラエルの占領下にあるパレスチナ自治区。これまでに色々ないきさつがありましたが、このパレスチナ自治区の中は、ずたずたに壁で仕切られ、400カ所

を越える検問所が設けられ、そのパレスチナ自治区領内には、現在なおイスラエルの入植地が次々建設されています。

その入植地は、元々あったパレスチナ人の土地を奪い、家々を破壊して建設されているものです。2006年には壁、検問所、入植地は国際司法裁判所で違法と判決が出ていますが、国のセキュリティを理由に止める気配はありません。

パレスチナ人によると、「ここには自治などはない。自治区などと呼ぶのではなく、イスラエルによる非占領地区と呼んで欲しい。」と言われます。そして、この占領政策が原因で紛争が起こると、パレスチナ人によるテロがあったとして、イスラエルは軍隊を出し、爆撃と砲撃で鎮圧し、多大な被害をもたらせています。軍隊を持たないパレスチナは、中東で有数の武力と兵力を持つイスラエルに対抗できる訳がありません。

こうして、土地や住居を奪われたパレスチナ人は、行くところがなく、難民キャンプに入れる人も限られているのが現状です。

このような現状をみる中で何かパレスチナに役立つ支援はないかと外務省に提案したのが、「日本のパ

レスチナへのODAによる支援の前にパレスチナ全域の現状実態調査をして、その調査結果に基づいて支援策を立てましょう。」というものです。



(ジェリコ工業団地、第一次計画の設計模型図)

紆余曲折ありましたが、この提案は承認され、日本人7名と現地専門家13名の総勢20名で調査を実施し、その結果に基づいて始まったのがジェリコ工業団地建設です。第1次計画と第2次計画を合わせると、85社が入居予定で、約7千名の新規雇用が生まれると見込まれています。現在この85社に対して約200社の入居希望が出ています。

この規模の工業団地には、周りに従業員の町ができ、マーケットも生まれます。また、ヨルダンとの国境に近いジェリコは輸出が容易なので、外貨が獲得の増加が見込めます。それらを総合して、経済の底上げと、パレスチナの貧困問題の改善を狙っています。

この設計の特徴は、電力を100%ソーラー発電だけで賄い、排水を地下のろ過装置を経由して再利用するなど、様々な工夫がなされています。



(完成間近の入居企業オフィス棟)

岩浅紀久 (いわあさ としひさ)

Profile : 兵庫県養父市出身。大阪工業大学電子工学科卒業 東京工業大学大学院で電子工学を修める。日本 IBM でシステムズエンジニア、日本フィリップスで情報システム部長を務め、現在 IT エンジニアリング研究所代表取締役。JICA 専門員としてパレスチナ中小企業支援プロジェクト担当、ジェリコ(エリコ)に工業団地を設計、建設をしている。

## 世界の貧困・格差とグローバル連帯税



いま「イスラム国(IS)」のテロや、中東からそして欧州・米国からISへ戦闘員として参加する者が後を絶たないなど深刻な事態が起きています。こうしたテロの背景には、中東・アフリカの貧困や

格差があり、欧州では移民たちへの格差や差別があると、多くの識者が指摘しています。

かつて、2001年ニューヨークで9.11同日テロがあり、この時もテロの背景として貧困・格差が問題となり、翌2002年国連開発資金会議では米国や欧州がODA(政府開発援助)の増額を決定しました(日本は時代に逆行し10%削減)。この国連会議は、2015年までに「世界の絶対的貧困を半減する」等のミレニアム開発目標(MDGs)実現のための資金会議でした。

そして2015年。確かに1日1.25ドル以下で生活する絶対的貧困層の「半減」は、途上国の努力と先進国からの支援で、2010年の段階で実現しました。が、1日2ドル以下で生活する貧困層は未だ27億人もおります。そういう中で、本年9月の国連サミットではMDGsに替わる、2030年を期限とする目標＝ポストMDGsが採択されます。これに先立ち7月には第3回国連開発資金国際会議がアジスアベバで開催されますが、この15年の経緯を見ると、先進国の公的資金であるODAが決して十分でなかったことが明らかです。とするなら、もうひとつの公的資金であるグローバル連帯税(航空券税や金融取引税など)が求められます。

テロ等は力だけで抑えきれものではありません。途上国の貧困や格差を是正していくため、ODAや連帯税など公的な資金援助を含む自立のための支援が今こそ求められています。

(国際連帯税フォーラム事務局長 田中 徹二)

## 綾部で世界連邦 市民学習会



綾部世界連邦運動協会(鹿子木旦夫会長)は2月21日、同市内のホールで「世界連邦 市民学習会」を開催、君島東彦・立命館大学国際関係学部教授の講演会を行いました。

同協会では昨年11月に同大学国際平和ミュージアム(京都市北区)を訪ねる見学会を実施。その際受けた同教授の平和講義が参加者に好評であったことから、地元招いて一般市民を対象にした学習会を催したものの。

憲法学、平和学が専門の同教授は「世界連邦運動の21世紀的かたち」と題して講演。「これほどグローバル化、世界の相互依存性・相互影響関係が深化している現在、わたしたちは世界連邦論・世界政府論一どのような世界秩序をめざすのかに関する議論

一を避けることはできない」と前置きしたうえで、カントの世界平和構想も交え世界連邦運動の発生・成立から国連改革としての世界連邦運動、冷戦後の展開、さまざまなコスモポリタリズムの隆盛などについて解説し、世界連邦運動から日本の平和・安全保障政策をどう見るか—というテーマについて、自衛(軍事同盟)ではなく共通の安全保障(国連平和活動)を重視することを力説しました。



また、消長を繰り返してきた世界連邦運動が唱える「一つの世界」論は今、国際社会においてリバイバルの兆しもあると述べ、参加した会員や市民ら約50人は熱心に耳を傾けていました。

(土田 哲生)

## はりまや橋で夜学会復活

### 高知から今一度発信

高知市のど真ん中のはりまや橋商店街で「夜学会」を復活させた。133年ぶりのことだということで、地元で話題となり、高知新聞でも大きく取り上げてもらった。

高知に帰ってから知ったのは、かつて高知市土佐山の西川という集落に山嶽社という夜学会があり、和田三郎という人物がいたことだった。和田三郎は自由民権運動において板垣退助を補佐し、『自由党史』を書いたことでも知られる。和田はまた孫文の中国革命にも共感し、雑誌や新聞を発行し、孫文の活動を側面から支援した。

和田の生家は「山嶽社」の看板を掲げ、西川の集落にひっそりとたたずんでいる。高知県で僕の最も愛する場所であり、僕が土佐山で活動をするきっかけになった場所でもある。

自由民権運動は維新後、高知に産声を上げた。多くの運動家、思想家を排出した陰にこの「夜学会」という学舎が高知県の各地に生まれたことは意外と知られていない。

自由にものを語り、主義を主張するという幕府時代にはなかった風潮が突然、高知の地に生まれ、燎原の火のごとく全国に広まった。全国の自由民権を求める牛耳がこの高知県にフォーカスされた時代だった。

自分たちが思う存分楽しむという高知の県民性はその時代に育まれたのだと考えている。1月23日から始めた「はりまや橋夜学会」はその伝統を引き継ぐ試みである。

「自由は土佐の山間より出ずる」というスローガンをもう一度掲げる時が来た。

安倍晋三首相になって以降、日本を戦争のできる国にしようという意図が明白になり、大メディアも政権になびく姿勢が強まっている。このまま進むと

日本は危険な国家になりかねない。そんな危機感が高まっている。「夜学会」の開催はそんな危機感から始まっている。もう一度、高知の地から国家のあり方を考える風を巻き起こしたい。既存のメディアにはもはや頼れない、市民一人ひとりが発言し、行動



(高知新聞 2015.1.23 夕刊から)

を起こさなければならない時代に突入した。世界連邦運動の発進力を一層高めていきたい。

以下、高知新聞の記事

明治時代に地域住民が集まって社会の在り方を議論した「夜学会」が現代の高知市に復活した。市民有志が主催し、1月23日夜は元共同通信記者の伴武澄さん(63)＝高知市＝が講演。参加者は日本とアジアの関係について考えた。今後も1週間に1回をめどに開催する予定。

夜学会は明治期、高知県内各地で開かれ、住民たちが自由民権思想を学ぶ自主学習サークルの役割を果たし、自由民権運動の熱を高める原動力となった。

(伴 武澄)

## 本部と支部等の動き

1月29日 WCRP (\* 世界宗教者平和会議日本委員会)  
新年勉強会 立正佼成会法輪閣

2月11日 ピース・ベレッジ 第29回「変容の時代を生きる」  
講師：木戸 寛孝常務理事

2月13日-15日 世界連邦推進全国小中学生ポスター作文コンクール優秀作品展 都庁第一本庁舎南展望室 45F

2月14日 同コンクール表彰式 新宿 NS ビル 3H 会議室

2月27日 第三回執行理事会 衆議院第二議員会館

3月8日 ピース・ベレッジ 第30回「東北復興から見える、組織と個人のこれから」講師：藤沢烈氏

4月4日 シンポジウム ～ICC加盟はパレスチナを救えるか～ HRN・青山学院共催

4月17日 推進日本協議会・執行理事会等 衆議院第二議員会館

## あなたも世界連邦運動協会の会員になりませんか

入会希望の方は、住所・氏名・電話番号・メールアドレスをお書きの上、郵送またはFAXにて下記の本部事務局へお申し込み下さい。

世界連邦運動協会 〒110-0015 東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル 3F

電話 (03) 6803-2114 FAX (03) 6803-2117

☐ 普通会员／年額 5,000 円 ☐ 維持会員／年額 10,000 円 ☐ 賛助会員／年額 15,000 円

## 2015 年度 定例 総会 招 集 告 知

下記により世界連邦運動協会 2015 年度定例総会を開催しますので、ご出席ください。

**日時:2015年5月23日(土) 午後12時45分～午後4時30分**

**場所:JICA地球ひろば セミナールーム 600 東京都新宿区市谷本村町 10-5**

議題 ①2014 年度会務報告に関する件 ②2014 年度決算・監査報告に関する件  
③2015 年度運動方針・活動計画に関する件 ④2015 年度予算に関する件  
⑤会長・副会長選出に関する件 ⑥支部提案 ⑦その他

〈注 1〉 総会は支部および団体会員から選出される代議員と役員によって構成されます。会員はオブザーバーとして出席することができますが、会場の席数に限りがありますので、出席を希望される方は予めお申し出下さい。

〈注 2〉 支部提案のある支部は支部名、提案題、発表者名を 5 月 13 日までに事務局まで送付して下さい。説明を簡明にして、所要時間節減にお努め下さい。

〈地図〉 「JICA 地球ひろば」

<http://www.jica.go.jp/hiroba/about/map.html>

**編集後記** ☆国際連帯税フォーラムの田中徹二さんに、ときおり当協会の事務局のお手伝いをいただいております。大変心強いです。(阿久根) ☆次号(5月28日号)は定例総会の結果を反映するため、6月中旬に皆様のお手元に届く予定です。ご了承ください。(塩浜) ☆日本国憲法や世界連邦運動の立場からすれば、特定国間の軍事同盟による集团的自衛権よりも国連(将来的には世界連邦)による集団安全保障体制の確立を目指すべきです。(平口) ☆映画「KANON」をご覧ください。台湾の嘉義農林野球部が1931年、甲子園で準優勝する物語。涙なくして見られません。国境を越えた愛は世界連邦精神そのものです。(伴)

**編集委員会/委員長:** 伴武澄、**副委員長:** 阿久根武志・塩浜修・平口哲夫、**委員:** 荻野忠則・土田哲生